

◆団体基本情報

No.	8	種別	公益財団法人	団体名	公益財団法人仙台市医療センター		
所在地	〒983-0824 仙台市宮城野区鶴ヶ谷五丁目22-1						
電話番号	022-252-1111	FAX番号	022-252-0454		所管 部局	健康福祉局 医療政策課	
団体ホームページ	http://www.openhp.or.jp/						
代表者職氏名	理事長 中川 洋			設立年月日	昭和49年12月5日		
資本金・基本財産	1,000 千円	市の出捐額(割合)	6,000 千円 (60.0 %)				
設立目的	仙台市及びその周辺の地域住民の公衆衛生の向上と包括医療の推進を図り、もって住民の健康と福祉の増進に寄与すること。						
事業概要	公衆衛生に関する指導相談事業。医学及び医療の向上に関する調査研究。オープンシステム病院、診療所及び介護老人保健施設の開設による公益的医療。生活習慣病の検診事業。介護保険法による各種サービス事業。その他この法人の目的達成に必要な事業。						
評価対象決算期	令和3年4月1日 ~ 令和4年3月31日						

◆人員等の状況

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
①常勤役員数	2 人	2 人	2 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	1 人	1 人	1 人
②常勤役員平均年齢	77.0 歳	78.0 歳	79.0 歳
③常勤役員平均年間報酬	6,136 千円	6,260 千円	6,216 千円
④職員数	805 人	816 人	811 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	4 人	4 人	4 人
⑤職員平均年齢	40.2 歳	40.2 歳	41.2 歳
⑥職員平均年間給与	5,588 千円	5,627 千円	5,716 千円

◆主要財務データ

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
①当期経常増減額	△ 379,287 千円	△ 142,106 千円	897,959 千円
②当期経常外増減額	60,793 千円	△ 1,743 千円	1,830 千円
③当期一般正味財産増減額	△ 318,616 千円	△ 143,971 千円	899,667 千円
④一般正味財産期末残高	2,765,377 千円	2,621,406 千円	3,521,074 千円
⑤指定正味財産期末残高	3,515,914 千円	3,421,400 千円	3,356,207 千円
⑥正味財産期末残高	6,281,291 千円	6,042,806 千円	6,877,281 千円
⑦長期借入金残高	9,493,300 千円	8,955,900 千円	8,418,500 千円

◆市の財政的関与

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
①市からの補助金	639,294 千円	701,548 千円	767,041 千円
②市からの委託料(指定管理料含む)	2,092 千円	81,353 千円	157,379 千円
③市に対する収入依存度	6.15 %	7.50 %	7.72 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和3年度事業費
仙台オープン病院	オープンシステム（開放型病院）による登録医との共同診療（地域医療支援病院）。人間ドックや脳検診等、市町村・事業所を対象とした大腸がん検診を実施。（人間ドック・健診施設機能評価認定） 広域仙台圏救急医療システムのコントロールタワーとして二次救急を中心とした救急事業（365日24時間対応） 管理型研修指定病院としての研修医受入。地域医療推進事業（市民医学講座・地域健康講座の開催、健康教育パンフレット発行）。看護学生に対する就学資金貸付事業、	10,085,945 千円
茂庭台診療所	内科・小児科の外来診療	23,873 千円
茂庭台豊齢ホーム	介護保険制度の施設入所の他、短期入所療養介護、通所リハビリテーション、通所介護、訪問リハビリテーションを実施	881,622 千円
居宅支援センター豊齢	介護保険制度の居宅介護支援事業所としてケアプラン作成の実施	11,393 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	<p>【病院】令和3年度においても専門的な医療体制を維持しつつ、開業医等との連携を強化し、北部を中心とした救急医療圏の救急事業を積極的に担ってきた。また、新型コロナウイルス感染症に対する重点医療機関としての役割や外来入所前検査、コロナワクチンの集団接種、そして、仙台市からの要請で受託している一次救急等、期待される役割に積極的に対応した。</p> <p>【茂庭】地域住民の健康と福祉の増進に寄与すべく、介護保険制度・認知症介護・栄養管理・リハビリテーション等について、地域健康セミナーを開催していたが、コロナ禍のため機関誌の発刊へ変更した。また、地域包括支援センター等へ講師派遣事業を行った。</p>	<p>仙台オープン病院では、社会的に需要の高い専門医療をさらに強化し、救急医療においても、オープンシステムのもと救急搬送患者を積極的に受け入れ、市内の二次救急医療に大きく貢献しているほか、新型コロナウイルス感染症にも確実に対応していることは、大いに評価できる。茂庭台豊齢ホームにおいては、コロナ禍において施設内にクラスターを発生させることなく地域住民の健康と福祉の増進に貢献できたことは評価できる。</p>
2. 業務・組織管理	<p>【病院】第4次中期経営計画における目標（営業収益増加目標）達成に向かうことその他、働き方改革を更に推し進め労働環境改善に努めた。具体的には、医師、医療支援部（薬剤部、診療放射線、臨床検査室）をシフト化した労働環境を構築し時間外削減を達成した。当院の取組みは「取組事例」としてセミナー等への紹介や人事担当者が学会で発表するなど先駆的な動きをしている。</p> <p>【茂庭】中期経営計画に基づき、健全経営に向けてコロナ禍に合わせて、地域へ向けた機関誌を発刊したり営業等を行い、稼働率が向上し通年超強化型の取得につながった。</p>	<p>経営面では第4次中期経営計画の初年度として、計画値と実績値の差異についても把握、分析し、目標達成に向けた取り組みが行われている。引き続き、健全経営に努められたい。また、組織管理面では、医師の働き方改革への対応として早期に勤務形態を変更し、結果として時間外労働についても削減でき、業界全体でも先進事例となっていることは高く評価できる。</p> <p>また、コンプライアンス研修など、法令順守・不正防止体制の整備が着実に実行されており、継続して取り組まれない。</p>
3. 財務状況	<p>【病院】コロナ禍において患者数減少の影響は続いているが、診療単価の単価アップで入院並びに外来診療収益の増加、また、コロナ空床補償等により財務状況が改善されたが、一時的なものであることから引き続き健全経営に向けての努力が必要と感じる。</p> <p>【茂庭】平成30年度報酬改定から超強化型を取得した。新型コロナウイルス感染拡大等により、各サービスの利用控え等も依然として見受けられるも、後半徐々に改善傾向があり、赤字額は最小限となった。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対応により、一般病床の減少や入院日数の減少などの影響もある一方、入院及び外来診療収益の増加などについては、経営安定化に向けた取り組みとして評価できる。新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら、引き続き中期経営計画の実現に努められたい。</p>
4. 今後の方向性及び課題	<p>【病院】令和4年度においてもコロナ対応を引き続き担っていくことや患者増加に向けて登録医との連携強化を進めていく必要がある。コロナ収束となった際の医療体制、取組み、健全経営に向けた経営方針を模索していくことや更なる地域医療・救急医療を担う病院を目指していく。</p> <p>【茂庭】中期経営計画を基に、超強化型を通年取得し、令和3年度介護報酬改定に伴い科学的介護情報システム（LIFE）加算を取得したため、施設内ネットワーク構築を行い、マンパワー不足を補うことを検討している。令和3年度宮城県介護ロボット・ICT導入事業補助金の申請を行うが見送られ、令和4年度再申請する予定。又、職員間で周知するためICT導入へ向けた勉強会を実施している。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響による減収はあるが、コロナ禍以前の患者数確保などを掲げた第4次中期経営計画に基づき、コロナ収束後の健全経営に向けて取り組むとともに、仙台医療圏の地域医療・救急医療を担う病院として、住民から信頼される病院を目指されたい。茂庭台豊齢ホーム事業についても、引き続き稼働率向上や経営の効率化に取り組むなどして、増収に努められたい。</p>